

MASTER VIEW USB KVM SWITCH



ユーザー マニュアル

CS-1754

CS-1758

注意

この装置は FCC(米国連邦通信委員会)規則、パート 15 の副章 J に従い、デジタル装置クラス B の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、本装置が一般家庭内で取り付けられたときに、有害な電波干渉が発生するのを防ぐために設定されています。本装置はラジオ周波数エネルギーを使用し、発生させることがあります。この操作マニュアルに従わずに本装置を取り付け、使用した場合、電波通信に有害な障害を起こすことがあります。しかし、定められた取り付け方法に従えば、必ず電波障害が起こらないと保証するものでもありません。本装置がラジオまたはテレビの電波受信に有害な障害となっているかどうかは、本装置の電源を入れたり、消したりして、確認してください。また、以下のひとつまたは複数の方法に従って、電波障害の状況を改善されることを推奨いたします。

- ◆ 受信アンテナの方向、または位置を変えてください。
- ◆ 本装置と受信機の距離を離してください。
- ◆ 受信機が接続されているコンセントと異なる電気回路に本装置のコンセントを差し込んでください。
- ◆ 販売店または、十分な経験を有するラジオ/テレビの技術者にお問い合わせください。



同梱品

以下のものが同梱されているか、ご確認ください。

- ◆ CS-1754 または CS-1758 KVM スイッチ × 1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル × 1
- ◆ 電源アダプタ × 1
- ◆ ラックマウントキット × 1
- ◆ ユーザーマニュアル(本書) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

万が一製品や付属品の破損・不足がございましたら、お買い上げになった販売店までご連絡ください。

本装置と接続されたデバイスが破損するのを防ぐために、本ユーザーマニュアルをご使用前によくお読みになり、正しい手順に従ってインストールし、ご使用ください。

©Copyright 2003-2005 ATEN® International Co., Ltd.

Manual Part No.PAPE-0225-200

Printed in Taiwan 01/2005

製品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

製品概要	6
製品特長	7
必要ハードウェア環境	8
はじめに	9
CS-1754 フロントパネル	9
CS-1758 フロントパネル	10
CS-1708 / CS-1716 リアパネル	11
本製品のインストール手順	13
1 段階接続セットアップ(単体利用時)	13
2 段階接続セットアップ(カスケード利用時)	16
3 段階接続(カスケード利用時)	18
基本操作	20
ホットプラグ	20
電源オフと再起動	21
ポート ID 番号付け	22
ポート選択	23
ホットキーポートコントロール	24
ホットキーポートアクセス	25
ホットキー設定	27
ホットキーモードのキー変更	27
OSD 表示のキー変更	27
キーボード セットアップ	28
その他の設定	29
ホットキー詳細表	30
キーボードエミュレーション	31
Sun キーボード	31
Mac キーボード	32
OSD 概要	33
OSD ナビゲーション	34
OSD メイン画面見出し	34
OSD ファンクション	35
◆ F1 GOTO	35
◆ F2 LIST	36
◆ F3 SET	37
◆ F4 ADM	39
◆ F7 SCAN	42

◆ F8 LOUT	43
ファームウェアアップグレードユーティリティ	44
アップグレード開始	45
アップグレード成功	48
アップグレード失敗	49
ファームウェアアップグレードリカバリー	50
付録	51
CS-1758 - コンピュータ 接続表	51
CS-1754 - コンピュータ 接続表	51
トラブルシューティング	52
ログイン情報の消去	53
仕様	54
スタッキングとラックマウント	55
スタッキング	55
ラックマウント	56
製品保証規定	57

製品概要

CS-1754/CS-1758 USB 対応 KVM(Keyboard、Video、Mouse; キーボード、モニタ、マウス)スイッチは、1 セットのコンソール(USB キーボード、モニタ、USB マウス)から、4 台(CS-1754)もしくは 8 台(CS-1758)のコンピュータ操作を可能とするコントロールユニットです。

ユニット間のカスケード接続には 3 段階まで対応しており、21 台の CS-1754 で 64 台のコンピュータが、73 台の CS-1758 で 512 台のコンピュータが、1 組のコンソールによって操作可能となります。

この KVM スイッチはコンソールに USB キーボード・マウスを使用しますが、コンピュータ側に対しては PS/2 と USB の両方に対応しています。KVM スイッチとコンピュータの接続に使用するケーブルを、PS/2 コネクタ対応、または USB コネクタ対応のどちらかを選択できます。ケーブルの詳細については P.8 をご参照ください。

CS-1754/CS-1758 は、マルチメディアキーボード(ボリュームアップ/ダウン、ミュート)とオーディオに対応しています。これにより、マイクを使用して接続されたそれぞれのコンピュータに音声入力が可能で、また 1 セットのスピーカーから接続されたそれぞれのコンピュータのオーディオ出力が可能になっています(KVM の切替えと同時にこれらの接続も切替ります)。

接続されたコンピュータの切替え方法は 3 つあります。

- (1) フロントパネルのポート選択ボタン
- (2) キーボードからのホットキー入力
- (3) OSD(On Screen Display)画面からのメニュー選択

またオートスキャン機能により、接続されたコンピュータの表示を 1 台 1 台自動的に切替えることが可能です。

セットアップは非常に簡単で、ケーブルをそれぞれの適切なポートに接続するだけです。面倒なソフトウェアやドライバのインストールも必要なく、互換性の問題に悩まされることもありません。また CS-1754/CS-1758 に接続されたキーボードから、複数の OS 環境に入力することも可能となっております(Win、Mac*、Sun* など)。

CS-1754/CS-1758 の導入ほど、時間とコストの節約になる方法はありません。接続されたすべてのコンピュータに 1 セットのコンソールでアクセスして操作できるため、以下のような効果を得ることができます。

- (1) それぞれのコンピュータにキーボード、マウス、モニタを購入する費用を削減
- (2) 余分なスペースを取らず、スペースの有効利用が可能
- (3) 省電力
- (4) コンピュータから他のコンピュータへと絶えず動きまわる無駄な労力を削減

*Mac および Sun 製品は USB 接続に限ります(詳細は P.8 を参照)。

製品特長

- ◆ USB 搭載 KVM スイッチ
- ◆ 1組のコンソール(キーボード、マウス、モニタ)で、4台(CS-1754)または8台(CS-1758)のコンピュータをコントロール可能
- ◆ 3段階カスケード接続により、1組のコンソールから最大512台のコンピュータをコントロール可能
- ◆ デュアルインターフェイス機能: USB接続、PS/2接続にて、キーボード・マウスのデータを各コンピュータ*へ転送可能
- ◆ コンピュータの切替えは、ポート選択プッシュボタンと OSD、ホットキーの3種によって可能
- ◆ LED表示により簡単に接続状態の監視が可能
- ◆ 接続されたコンピュータを自動でモニタリングするオートスキャンモード搭載
- ◆ キーボードのエミュレーション機能により、エラーなしでコンピュータの起動が可能
- ◆ マルチメディアキーボード対応(ボリュームアップ/ダウン、ミュート)
- ◆ VGA 解像度: 2048×1536、DDC2B 準拠
- ◆ 簡単セットアップー ソフトウェア、ドライバ不要
- ◆ ホットプラグ対応ーメンテナンスのためコンピュータの増設や削減をするときに、KVM スイッチは電源オンのまま操作が可能
- ◆ 対応コンピューター Windows(PC/AT 互換機、DOS/V 互換機)、Mac、Sun
- ◆ 対応 OSーWindows(98SE/Me/2000/XP)、Mac OS8.6 以降、Linux Red Hat 7.1 以降、Solaris

*PC/AT 互換機のため、Mac および Sun 製品は USB 接続に限ります(詳細は P.8 を参照)。

必要ハードウェア環境

コンソール側:

- ◆ 接続するコンピュータの解像度に適した、VGA、SVGA、マルチシンクビデオカード対応のモニター
- ◆ USB マウス
- ◆ USB キーボード

コンピュータ側:

以下の構成が、接続するそれぞれのコンピュータに必要です。

- ◆VGA、SVGA、もしくはマルチシンクビデオカード
- ◆キーボード/マウス接続ポート: タイプ A USB インターフェイス、もしくは PS/2 インターフェイス

ケーブル:

ATEN 製カスタム KVM ケーブルをご使用ください。

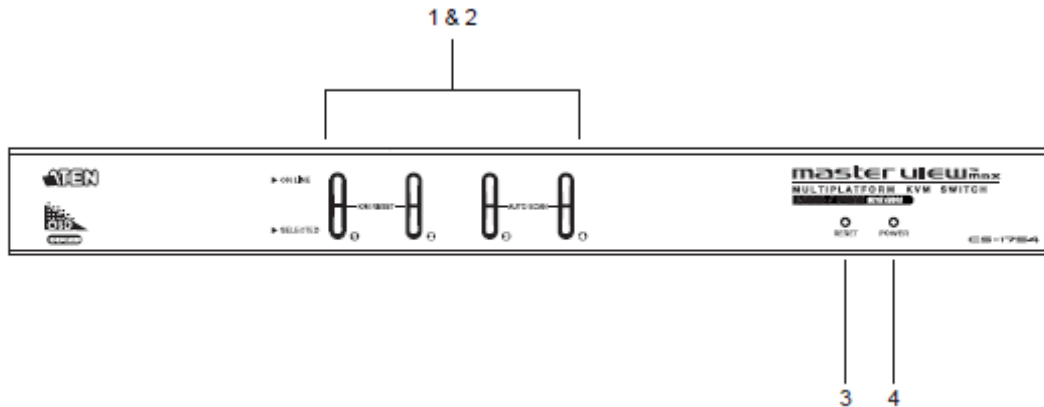
接続先のコンピュータへキーボードとマウスのデータ転送に必要な KVM ケーブルは、PS/2 コネクタと USB コネクタの選択が可能となっています(詳細は P.15 図を参照)。

ケーブルタイプ	長さ	型番
PS/2 KVM	1.2 m	2L-5301P
PS/2 KVM	1.8 m	2L-5302P
PS/2 KVM	3.0 m	2L-5303P
USB KVM	1.2 m	2L-5301U
USB KVM	1.8 m	2L-5302U
USB KVM	3.0 m	2L-5303U

カスタム KVM ケーブルについてはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

はじめに

CS-1754 フロントパネル



1. ポート選択ボタン

- ◆ 接続されている複数のコンピュータを、手動で切替えるボタンです。
- ◆ 1と2のボタンを同時に2秒以上押すと、キーボードとマウスをリセットします。
- ◆ 3と4のボタンを同時に2秒以上押すと、オートスキャンモードになります(オートスキャンモードについての詳細は P.26 を参照)。

2. ポート LED

ポート LED はポート選択ボタンに内蔵されています。上段はオンライン状態のポートを示す LED で、下段は現在選択されているポートを示す LED です。

- ◆ オレンジの LED が点灯している時は、表示のポートがオンライン状態で、接続されたコンピュータが動作中であることを示しています。この LED が点滅時は、表示のポートに他の KVM スイッチがカスケード接続されていることを示しています(カスケード接続についての詳細は P.16 を参照)。
- ◆ グリーンの LED が点灯している時は、選択されたポートに KVM スイッチが切替わっていることを示します。この LED が点滅時は、オートスキャンモード状態であることを示しています(詳細は P.26 および P.42 を参照)。

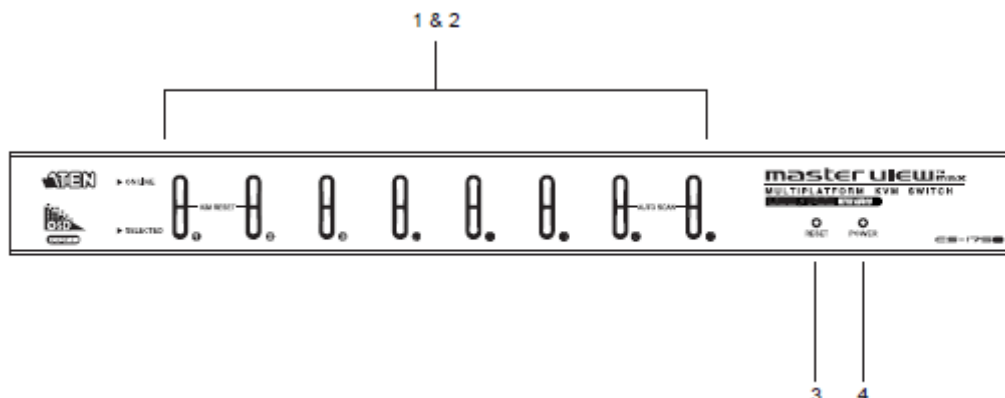
3. リセット

リセットスイッチを押すには、先端の尖った物(ペーパークリップの先、ボールペンの先など)をお使いください。スイッチを押した状態を3秒以上維持することによりコールドリセットが実行されます。

4. 電源 LED

電源 LED が点灯しているとユニットに電源供給がされていることを示しています。

CS-1758 フロントパネル



1. ポート選択ボタン

- ◆ 接続されている複数のコンピュータを、手動で切替えるボタンです。
- ◆ 1と2のボタンを同時に2秒以上押すと、キーボードとマウスをリセットします。
- ◆ 7と8のボタンを同時に2秒以上押すと、オートスキャンモードになります(オートスキャンモードについての詳細は P.26 を参照)。

2. ポート LED

ポート LED はポート選択ボタンに内蔵されています。上段はオンライン状態のポートにて表示される LED で、下段はスイッチで選択されたポートを示す LED です。

- ◆ オレンジの LED 点灯時は、表示のポートがオンライン状態で、接続されたコンピュータが動作中であることを示しています。この LED が点滅時は、表示のポートに他の KVM スイッチがカスケード接続されていることを示しています(カスケード接続についての詳細は P.16 を参照)。
- ◆ グリーンの LED 点灯時は、選択されたポートに KVM スイッチが切替わっていることを示します。この LED が点滅時は、オートスキャンモード状態であることを示しています(詳細は P.26 および P.42 を参照)。

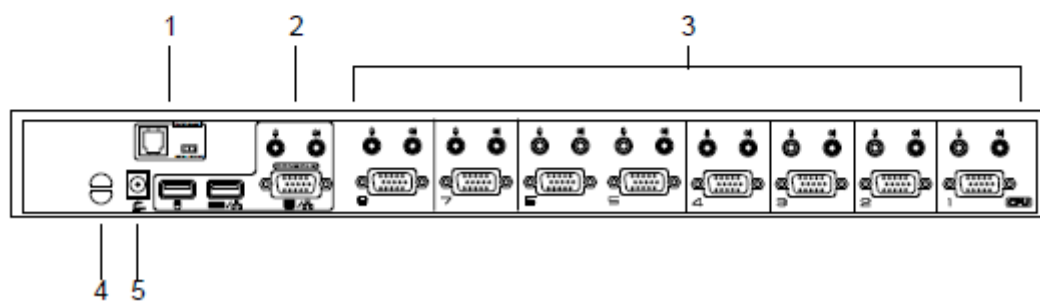
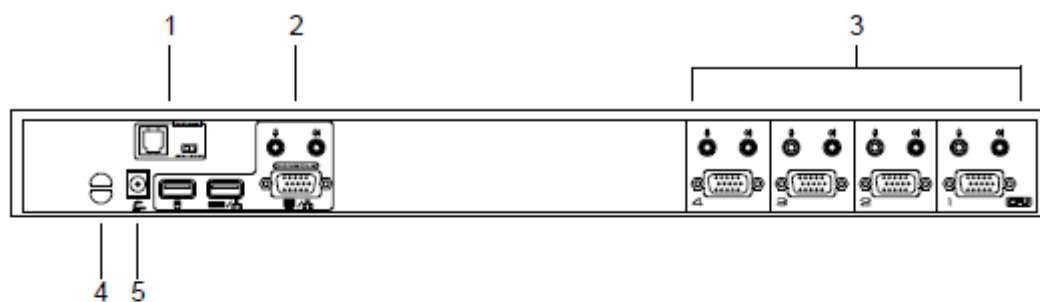
3. リセット

リセットスイッチを押すには、先端の尖った物(ペーパークリップの先、ボールペンの先など)をお使いください。スイッチを押した状態を3秒以上維持することによりコールドリセットが実行されます。

4. 電源 LED

電源 LED が点灯していると電源供給がされていることを示しています。

CS-1708 / CS-1716 リアパネル



1. ファームウェアアップグレードセクション

◆ ファームウェアアップグレードスイッチ

通常の操作時には、スイッチは「NORMAL」の位置に設定します。このスイッチの詳細は P.50 をご参照ください。

◆ ファームウェアアップグレードポート

管理者のコンピュータに接続されたファームウェアアップグレードケーブルを CS-1754/CS-1758 の RJ-11 コネクタに接続します。ファームウェアアップグレードの詳細は P.44 をご参照ください。

2. コンソールポートセクション

コンソールとして使用する、マイク、スピーカー、モニタ、キーボード、マウスをここに接続します。それぞれの接続先アイコンマークを確認して正しく接続してください。

3. CPU ポートセクション

コンピュータに接続されたケーブルを CPU ポートに接続します。それぞれの CPU ポートは、マイクジャック、スピーカージャック、KVM データを伝送します。

注意： KVM ケーブルを接続する 15 ピンコネクタは、KVM スイッチ専用設計されたものです(詳細は P.8 を参照)。通常の 15 ピン VGA ケーブルを接続しないでください。

4. ケーブル固定スロット

ケーブル類を束ねて固定する時に、このスロットをお使いください。

5. 電源ジャック

電源アダプタのケーブルをこのジャックに接続してください。

本製品のインストール手順

インストールの前に



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピュータにキーボード起動の機能がついている場合は、電源ケーブルも抜いてください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされているか確認してください。

1 段階接続セットアップ(単体利用時)

CS-1754/CS-1758 のセットアップ時には、次ページの接続図をご参照ください：

1. コンソールとして使用する、USB キーボード、USB マウス、モニター、マイク、スピーカーをユニットのリアパネルにあるコンソールポートに接続してください。
2. KVM ケーブル(別途購入が必要です。詳細は P.8 を参照)を、接続可能な GPU ポート(カスタム SPDB コネクタ)に接続してください。同時にマイクとスピーカーのケーブルも、それぞれのジャックに接続してください。

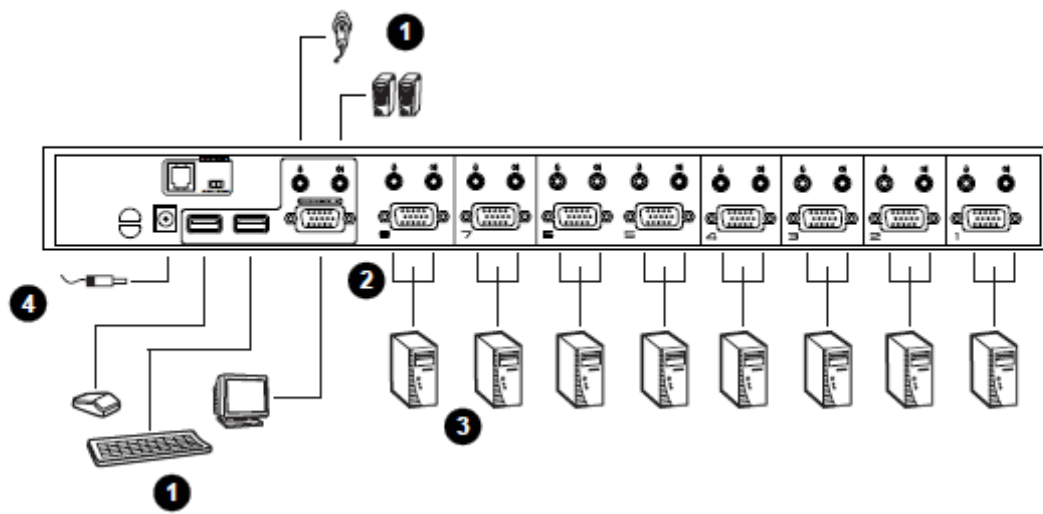
注意： 1 セットの KVM ケーブルは、全て同じ GPU ポートに接続されていることを確認してください(1 つ目の KVM ケーブルは全てポート 1 へ、2 つ目の KVM ケーブルは全てポート 2 へ……)。

3. KVM ケーブルのコンピュータ側：
 - a) USB 接続の場合(詳細は P.15 を参照)、コンピュータ側の USB、モニター、マイク、スピーカーのそれぞれのポートに接続してください。
 - b) PS/2 接続の場合(詳細は P.15 を参照)、コンピュータ側のキーボード、マウス、モニター、マイク、スピーカーのそれぞれのポートに接続してください。
4. 電源アダプタケーブル先端を電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。
5. 他にコンピュータを接続する場合にも、同様にステップ 2~4 を繰り返し、セットアップしてください。

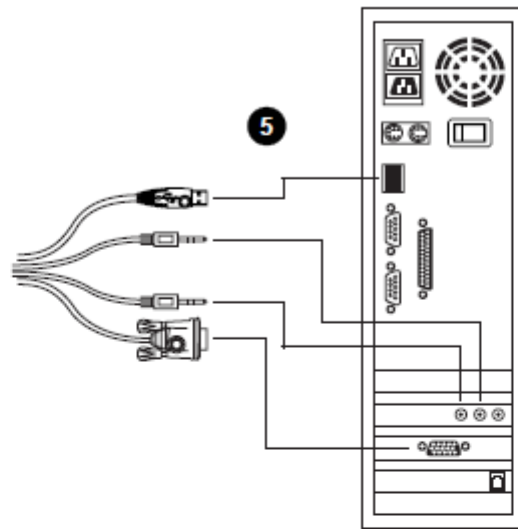
以上で 1 段階接続は完了です。使用されるコンピュータの電源をオンにしてください。

注意： CS-1754/CS-1758 は、最初に電源オンになったコンピュータとのリンクが優先されます。

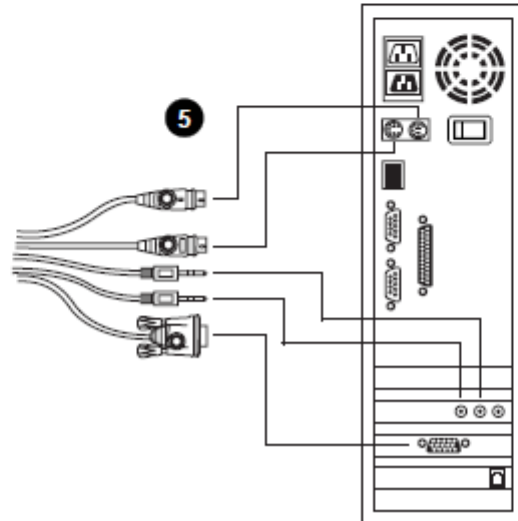
1 段階接続図



USB Cable Connection:



PS/2 Cable Connection:



2 段階接続セットアップ(カスケード利用時)

さらに多数のコンピュータを操作するために、CS-1754/CS-1758 を 4 台または 8 台カスケード接続することが可能となっています。1 段階目のユニットへ、2 段階目となるユニットを接続することにより、最大 16 台(CS-1754)あるいは 64 台(CS-1758)のコンピュータを操作可能となります。P.52 にユニットの使用台数と接続可能なコンピュータの台数をまとめた表がありますのでご参照ください。

次ページの 2 段階接続セットアップの接続例を参考にしながら以下の手順に従って作業を進めてください。

1. セットアップを開始する前に、接続するデバイスの電源がすべてオフになっていることを必ず確認してください。

2. USB KVM ケーブルセット(詳細は P.8 を参照)を、1 段階目の接続可能な CPU ポートに接続し、2 段階目のコンソールポートに接続します。

注意: USB コネクタをコンソール側 SPDB ポートの隣の USB ポートに接続してください(それぞれのポートには接続先のアイコンが表示されています)。

3. 2 段階目の KVM ケーブルセット(詳細は P.8 を参照)を接続可能な SPDB コネクタ CPU ポートに接続してください。同時にマイクとスピーカーのケーブルも、それぞれのジャックに接続してください。

注意: 1 セットの KVM ケーブルは、全て同じ CPU ポートに接続されていることを確認してください(1 つ目の KVM ケーブルは全てポート 1 へ、2 つ目の KVM ケーブルは全てポート 2 へ……)。

4. KVM ケーブルのコンピュータ側:

a) USB 接続の場合(詳細は P.15 を参照)、コンピュータ側の USB、モニター、マイク、スピーカーのそれぞれのポートに接続してください。

b) PS/2 接続の場合(詳細は P.15 を参照)、コンピュータ側のキーボード、マウス、モニター、マイク、スピーカーのそれぞれのポートに接続してください。

5. 他の接続するコンピュータにも、同様にステップ 3、4 を繰り返し、セットアップしてください。

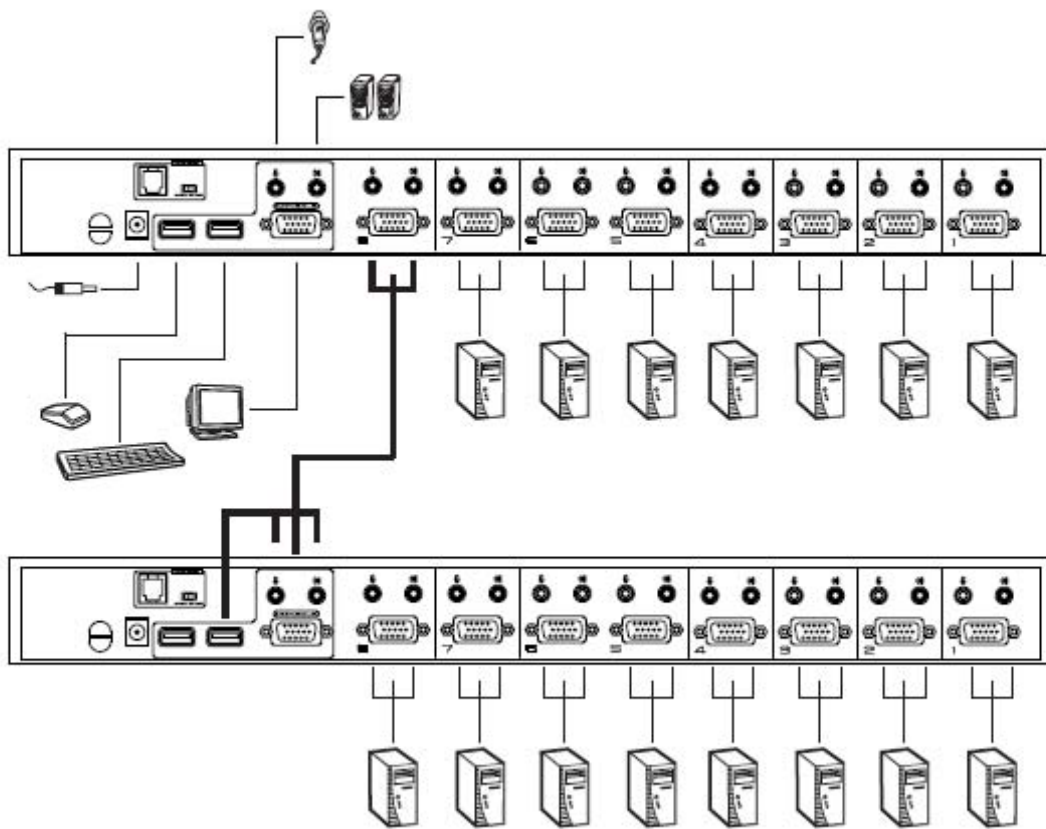
6. 2 段階目のユニットの電源アダプタケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。

7. 1 段階目のユニットの電源アダプタケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。

8. すべてのコンピュータの電源をオンにしてください。

注意: 電源オンのステップは、2 段階目のユニットの電源が最初にオンになる必要があります。その後に 1 段階目のユニットが電源オンになり、最後にコンピュータの電源をオンにしなければなりません。

2 段階接続図



3 段階接続(カスケード利用時)

3 段階接続をセットアップする手順は、2 段階接続のセットアップ手順と基本的には同じです。3 段階接続をすることにより、最大 64 台(CS-1754)あるいは 512 台(CS-1758)のコンピュータを操作可能となります。P.52 にユニットの使用台数と接続可能なコンピュータの台数をまとめた表がありますのでご参照ください。

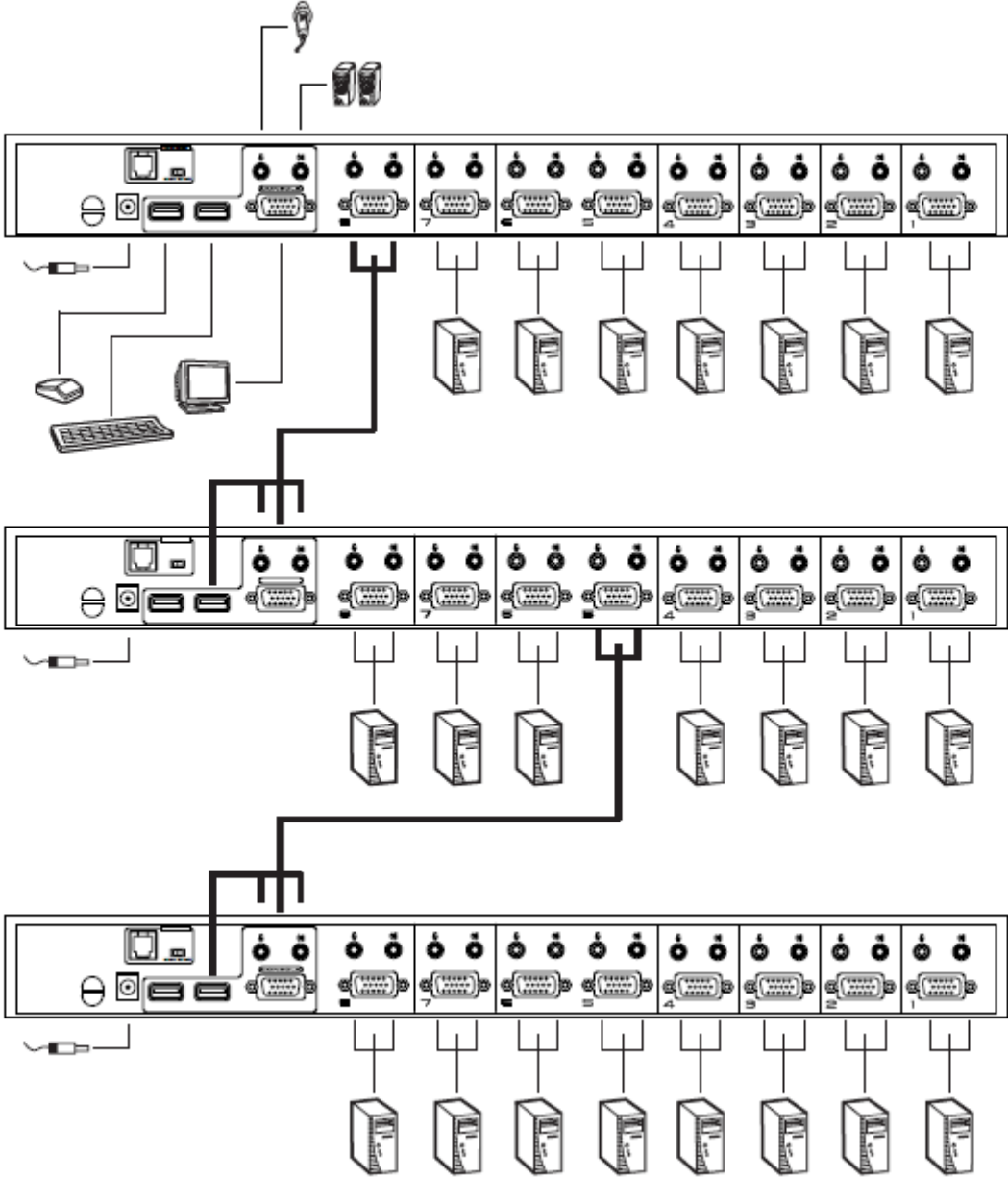
注意： 3 段階接続以上にカスケード接続することはできません。

すべてのケーブル接続を完了後(詳細に関しては 2 段階接続の項をご参照ください)、以下の手順にて電源オンのステップを行います：

1. 3 段階目のユニットの電源アダプタケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。
2. 2 段階目のユニットの電源アダプタケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。
3. 1 段階目のユニットの電源アダプタケーブルを電源ジャックに接続し、その後、電源アダプタを電源コンセントに接続してください。
4. すべてのコンピュータの電源をオンにしてください。

注意： 電源オンのステップは、3 段階目のユニットの電源が最初にオンになる必要があります。その後に 2 段階目のユニットが電源オンになり、その後に 1 段階目のユニットが電源オンになり、最後にコンピュータの電源をオンにしなければなりません。

3 段階接続図



基本操作

ホットプラグ

マスタービューCS-1754/CS-1758 は、ホットプラグに対応しています。KVM スイッチ側の電源をオフにすることなく、接続されたコンピュータのケーブルを抜き差し可能となっています。ホットプラグを適切に機能させるため以下の手順に従って操作するようにしてください。

◆ CPU ポートのホットプラグ：

1. ケーブルは抜いたポートと同じポートに接続しなければなりません。
2. マウスのケーブルを、キーボードより先に接続してください。
3. ケーブルを接続後、1 段階目のユニットの KVM リセットを実行してください(リセットスイッチを押すことにより可能)。

◆ コンソールポートのホットプラグ：

ユニットのコンソール側キーボード・マウス・モニタはホットプラグに対応しています。

◆ マウスのプラグの抜き差し時(例：マウスのリセットが必要な時)には、抜いたマウスと同じ機種のマウスを接続してください。

◆ 異なる機種のマウスを接続する場合は、接続されたすべての KVM とすべてのコンピュータをシャットダウンし、10 秒以上待ってから再起動してください(P.18、電源オンのステップをご参照ください)。

注意：PS/2 キーボード、PS/2 マウスがホットプラグ後(あるいは他の場合も含め)、何も反応しない場合、1 段階目のユニットのポートセレクトボタン 1 と 2 を同時に 3 秒以上押すことにより、PS/2 キーボード、マウスのリセットができます。

電源オフと再起動

マスタービューユニットの電源オフを実行する場合は、以下の手順に従って行ってください：

1. ユニットに接続されたすべてのコンピュータの電源をオフにしてください。カスケード接続時も同様に接続されたすべてのコンピュータの電源をオフにしてください。

注意：

1. キーボードで電源をオンにする機能を持つコンピュータの場合は、電源コードを抜いてください。そうしない場合 KVM スイッチはコンピュータから電源供給を受け続けることになります。

2. 外部電源を使用している場合は、電源アダプタのプラグを外してください。

2. 電源オフの状態です 10 秒以上お待ちください。その後、カスケード接続時はユニットの 3 段階目、2 段階目、1 段階目の順に電源オンにします。

3. マスタービュー側の電源がオンになった後に、各接続されたコンピュータ側も同様に、3 段階目、2 段階目、1 段階目の順に電源オンにします。

ポート ID 番号付け

CS-1754/CS-1758 の各 CPU ポートには、すべて独自のポート ID 番号が割り当てられます。これにより接続されたすべてのレベルのコンピュータに対し、ポート ID を指定するだけで直接アクセスが可能となります。アクセス方法には、ホットキー(詳細は P.24 参照)による方法と、OSD 画面(詳細は P.33 参照)からの方法があります。

ポート ID は、1~3 桁の番号が割り当てられます。これらはユニット側のステージレベル(何段階)とコンピュータが接続されている CPU ポート番号によって決められています。

最初の桁は 1 段階目のユニットのポート ID を表示しています。2 桁目は 2 段階目のユニットのポート ID を表示しています。3 桁目は 3 段階目のユニットのポート ID を表示しています。

◆ 1 段階目のユニットに接続されたコンピュータは、1 桁のポート ID を割り当てられ(CS-1754 は 1~4 番、CS-1758 は 1~8 番)、これは CPU ポート番号に対応しています。

◆ 2 段階目のユニットに接続されたコンピュータは、2 桁のポート ID を割り当てられます。1 桁目の番号が、1 段階目のユニットの CPU ポート番号を表示し、2 桁目の番号が、2 段階目のユニットの CPU ポート番号に対応しています。

例えばポート ID 番号が 2-3 の場合は、2 段階目の CPU ポート 3 にコンピュータが接続され、1 段階目の CPU ポート 2 にリンクされていることを示しています。

◆ 同様に 3 段階目のユニットに接続されたコンピュータは、3 桁のポート ID を割り当てられます。例えばポート ID 番号が 2-4-1 の場合は、3 段階目の CPU ポート 1 にコンピュータが接続され、2 段階目の CPU ポート 4 にリンクされ、さらに 1 段階目の CPU ポート 2 にリンクされていることを示しています。

ポート選択

CS-1754/CS-1758 に接続されたコンピュータへアクセスするには、手動/ホットキー/OSD の 3 つの方法が用意されています。

◆ 手動

手動によるポート選択は非常に簡単で、CS-1754/CS-1758 フロントパネルにあるポート選択ボタンを操作します。このボタンを押すと、対応するポートに接続されたコンピュータに KVM のフォーカスが切り替わり、選択されたポートの LED が点灯します。OSD 表示時は(詳細は P.34 参照)、選択されたポート ID が強調表示されます。

注意:

1. カスケード接続時も、CS-1754/CS-1758 のポート選択ボタンを押すことによって、選択したいコンピュータへ直接アクセスすることが可能です。
2. オートスキャンモードを開始するには、1 段階目のユニットのポート選択ボタン 3 と 4(CS-1754)、もしくは 7 と 8(CS-1758)を同時に押すことによって実行できます(詳細は P.42 F7 SCANを参照)。デフォルトではすべてのポートをクイックビュー(クイックビューで表示するポートの設定方法は、P.37 を参照)として閲覧できる設定となっています。ポート切替えは自動的に循環して表示します。各ポートの表示時間の設定は OSD 画面 F3 SET の SCAN DURATION(詳細は P.39 を参照)にて可能となっています。

◆ ホットキー

ホットキーでは、ポート選択ボタンを押す代わりに、キーボードから KVM のフォーカスを切替えることを可能とします。ホットキー操作に関する詳細は P.24 からの項をご参照ください。

◆ OSD

OSD(On Screen Display)のメニュー画面から、接続されたコンピュータへアクセスすることも可能となっています。OSD 画面の操作に関する詳細は P.33 以降をご参照ください。

ホットキーポートコントロール

CS-1754/CS-1758 は、KVMに接続されたキーボードからホットキーを利用して、簡単に操作や設定をおこなうことが可能となっています。これらすべてのホットキーを使用する前には、ホットキーモードを有効にしなくてはなりません。

ホットキーモード(HKM)を有効にする

HKM を有効にするには下記の操作を行います：

1. [Num Lock]キーを押したまま、
2. [-] マイナスキーを押して、すぐに離してください。
3. [Num Lock]キーを離してください。

[Num Lock] + [-]

注意：

1. [-]キーを押している時間は、0.5 秒以内になるようにしてください。時間を越えると操作が無効になります。
2. HKM を有効にするための、別のキー組み合わせも用意しています。詳細は、P.27 をご参照ください。

HKM アクティブ時：

- ◆ HKM が有効になっている間、[Caps Lock]と[Scroll Lock]キーが交互に点滅します。HKM が無効になり、通常の状態になると点滅は終了します。
- ◆ HKM が有効になっている間、コマンドラインがモニタに表示されます。ブルーの背景にイエローの文字で、入力したホットキーコマンドが表示されます。
- ◆ 通常のキーボードとマウスの入力はサスペンド状態になります。ホットキーモードで使用できるキーボードとマウスの入力のみ可能(詳細は後述)となります。
- ◆ いくつかのホットキー操作は自動的に終了しますが、手動で終了しなければならないホットキー操作もあります。手動では、[Esc]キー、もしくはスペースキーを押すことにより HKM が解除されます。

ホットキーポートアクセス

ホットキーポートアクセス機能によりポートの切替えが可能となっています。CS-1754/CS-1758にて可能なホットキーポートアクセスは以下の2通りです:

- ◆ ポート ID 番号指定
- ◆ オートスキャンモード

◆ ポート ID 番号指定

ホットキーモードを有効にし、コマンドラインで直接ポート ID 番号を指定することで、そのポートに接続されたコンピュータに切り替えることが可能です。(ポート ID の詳細は P.22 参照)

1. HKM を有効にしてください(詳細は P.24 参照)
2. 切り替えたいコンピュータのポート ID 番号を入力してください

入力したポート ID 番号はモニタ上にコマンドラインにて表示されます。もし間違った番号を入力した場合は[Backspace]キーにて修正してください。

3. [Enter]キーを押してください。

KVM は指定されたポート ID に接続されたコンピュータに切り替り、ホットキーモードは自動的に解除されます。

◆ オートスキャンモード

CS-1754/CS-1758 のオートスキャンモード時は、すべてのアクティブな CPU ポートを対象に、あらかじめ設定された SCAN DURATION に従ってモニタ表示が自動的に切り替ります。スキャンモードの詳細は、P.38 の OSD 画面 F3 SET の項目をご参照ください。

オートスキャンモードは以下のホットキーの組み合わせで有効になります：

1. HKM を有効にしてください(P.24 参照)。
2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押すと自動的にホットキーモードは解除され、オートスキャンモードが開始されます。

オートスキャンモードを終了するには、[Esc]キー、もしくは[スペースキー]を押してください。

注意：

オートスキャンモード中、キーボード・マウスの機能はサスペンド状態になり、オートスキャンモード中に入力可能なキーボード・マウス操作のみが有効になります。オートスキャンモード解除後は、通常のコンソール操作が可能となります。

オートスキャンモード時に特定のコンピュータで表示を止めたい場合には[P]キーを押すか、もしくはマウスを左クリックしてください。これにより表示はポーズ状態になり、ディスプレイにはコマンドライン表示にて、*Auto Scan: Paused*と表示されます。ポーズ状態のとき、そのコンピュータに対してはモニタリングのみで、コンソール入力を行うことはできません。コンソール入力を行う必要がある場合にはオートスキャンモードを解除してください。

特定のコンピュータ表示の一時停止は、オートスキャンモード時にとっても便利な機能です。再開するときはポーズ状態のポートから再スタートします。

ホットキー設定

ホットキーモードのキー変更

ホットキー入力に使用するキーは、デフォルト状態で他のプログラム使用上不具合がある場合に備えて変更可能となっています。

ホットキー組み合わせの変更は下記をご参照ください:

1. HKM を有効にしてください(P.24 参照)。
2. [H]キーを押してください。

ホットキーモードを有効にするキーが[Ctrl]キー([Num Lock]キーの代わり)と[F12]キー([-]マイナスキーの代わり)に変更されます。

注意:

初期状態の[Num Lock]キーと[-]マイナスキーに戻す場合は、同様に HKM を有効にし、[H]キーを押してください。キーの変更手順は繰り返し可能です。

OSD 表示のキー変更

OSD 画面表示のホットキーは[Scroll Lock]キー2 度押しですが、[Ctrl]キーの 2 度押し([Ctrl] [Ctrl])に変更可能です。OSD 表示キーの変更は下記をご参照ください:

1. HKM を有効にしてください(P.24 参照)。
2. [T]キーを押してください。

注意:

1. 初期状態の[Scroll Lock]キー2 度押しに戻す場合は、同様に HKM を有効にし、[T]キーを押してください。キーの変更手順は繰り返し可能です。
2. Mac システムにて使用される場合は、[Ctrl]キー2 度押しに変更されることを推奨します。Mac キーボードでは[Scroll Lock]キーが PC キー配列から Mac キー配列にエミュレーション(詳細は、P.32 参照)していますので[F14]キーに変更されています。

キーボード セットアップ

CS-1754/CS-1758 のデフォルト設定は Windows(DOS/V 互換)のキーボード設定で、US 英語キーボード配列になっています。ホットキーによって、使用するキーボードをポートごとに設定することが可能です。

キーボード ポート別セットアップ方法:

1. HKM を有効にしてください(P.24 参照)。
2. 対応するファンクションキー(下記表を参照)を押してください。

キー	操 作
[F1]	選択されたポートは、Windows(DOS/V 互換)のキーボードに設定されます。デフォルトは Windows 対応です。
[F2]	選択されたポートは、Mac 対応のキーボードに設定されます。
[F3]	選択されたポートは、Sun 対応のキーボードに設定されます。
[R] [Enter]	リセット:KVM 設定はデフォルト状態に戻ります。

設定完了後はホットキーモードが自動的に解除されます。

その他の設定

ホットキーで USB キーボード/マウスをリセットしたり、ビープ音をオン/オフしたりすることも可能です。オン/オフの設定は繰り返し設定できます。設定方法は下記をご参照ください：

1. HKM を有効にしてください(P.24 参照)。
2. 対応するファンクションキー(下記表を参照)を押してください。

キー	操 作
[F5]	USB キーボード/マウスをリセットします。
[B]	ビープ音のオン/オフ: コマンドラインには Beeper On/Beeper Off が 1 秒間表示され、ホットキーモードの解除と共に表示が消えます。

設定完了後はホットキーモードが自動的に解除されます。

ホットキー詳細表

[Num Lock]+[-]	[ポート ID] [Enter]	指定されたポートに接続されたコンピュータに切り替ります。
	[A]	オートスキャンモードを開始します。 オートスキャンモード時に[P]キーもしくは、マウスの左クリック入力により、ポーズ状態になりスキャンは休止します。オートスキャンの再開には、なにかキーを押すか、左クリックしてください。
	[H]	ホットキーモードを有効にするキー設定の変更です。デフォルトの[Num Lock] [-]から[Ctrl] [F12]へ交互に変更可能です。
	[T]	OSD 画面呼び出しキーの変更です。デフォルトの[Scroll Lock] [Scroll Lock]から[Ctrl] [Ctrl]へ交互に変更可能です。
	[F1]	選択されたポートを PC 互換(DOS/V 互換)対応のキーボードに設定します(デフォルト)。
	[F2]	選択されたポートを Mac 対応のキーボードに設定します。
	[F3]	選択されたポートを Sun 対応のキーボードに設定します。
	[F5]	USB キーボード/マウスをリセットします。
	[R] [Enter]	KVM スイッチの設定をリセットし、デフォルトに戻します。
	[B]	ビープ音のオン/オフを設定します。

注意:

ファンクションキーは、指定されているキーのみを入力してください。他のファンクションキーは入力しないでください。






キーボードエミュレーション

Sun キーボード

コンソールが PC 互換キーボード(101/104 キー)であっても、エミュレーション機能により Sun キーボードのファンクションを[Ctrl]キーとの組み合わせにより使用可能になります。詳細は下記の表をご参照ください。

注意:

[Ctrl]キーとの組み合わせを使用する場合、[Ctrl]キーを押して離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。



PC キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
App	Compose
Win Key	

Mac キーボード

コンソールが PC 互換キーボード(101/104 キー)であっても、エミュレーション機能により Mac キーボードのファンクションを使用可能になります。詳細は下記の表をご参照ください。

注意:

他キーとの組み合わせを使用する場合、[Ctrl]もしくは[Alt]キーを押してすぐに離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。

PC キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
[Win]	
F12	
[Alt]	左 Alt/オプション
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
[Desktop Menu]	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Ins]	Help
[Ctrl] [Desktop Menu]	F15

OSD 概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)を使ってすべてのコンピュータを操作することができます。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。OSD 画面を呼び出すには、まず[Scroll Lock]キーを 2 度押してください。

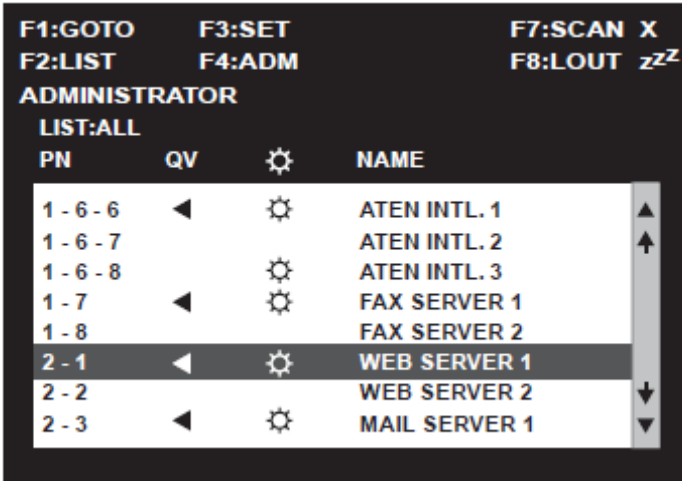
注意:

OSD 表示のホットキーを[Ctrl]キーに変更できます(OSD ホットキーの詳細は、P.37 を参照)。**[Ctrl]**キーの 2 度押しの際は、キーボードの同じサイドに位置する**[Ctrl]**キーを押してください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。

OSD では、2 つのレベル(アドミニストレーター/ユーザー)の権限を設定することが可能です。**[Scroll Lock]**キーを 2 度押すと、OSD メインメニューが表示される前にユーザーネームとパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。OSD メインメニューにアクセスするためには、これらを入力する必要があります。

OSD 初回起動時やパスワードの設定がされていない場合、ダイアログボックスには何も入力せず、**[Enter]**キーを 2 度押してください。OSD メインメニューはアドミニストレーターの権限で起動し、すべての OSD ファンクションが使用可能になります。

OSD 画面の実行時は、以下のように表示されます:



PN	QV	⚙️	NAME
1 - 6 - 6	◀	⚙️	ATEN INTL. 1
1 - 6 - 7			ATEN INTL. 2
1 - 6 - 8		⚙️	ATEN INTL. 3
1 - 7	◀	⚙️	FAX SERVER 1
1 - 8			FAX SERVER 2
2 - 1	◀	⚙️	WEB SERVER 1
2 - 2			WEB SERVER 2
2 - 3	◀	⚙️	MAIL SERVER 1


注意:

- この画面はアドミニストレーター権限ログイン時のメインメニューです。ユーザー権限ログイン時のメインメニューでは、**F4 ADM** の項目は表示されません。
- OSD 表示では常にリストビューの状態が始まります。ハイライトバーは OSD 画面が最後に閉じられた時に表示されていた位置と同じ位置で表示されます。
- アドミニストレーター権限でアクセス可能なポートを設定した場合、ユーザー権限でログインすると、そのユーザーがアクセス可能なポートのみがリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は、P.41 を参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリック、もしくは[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する F8:LOUT をクリック、もしくは[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくはキーボードの上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくは[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくは上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくは[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的に 1 段階上のメニューに戻ります。

OSD メイン画面見出し

見出し	説	明
PN	この項目はポートID 番号(ポートID 番号の詳細は、P.22 を参照)になり、すべての CPU ポートに番号があります。ハイライトバーを移動し[Enter]を押すと、画面がそのポートに接続されたコンピュータに切り替わります。	
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.42 を参照)すると、QV の項目には矢印が表示されます。	
	ポートにコンピュータが接続されていて、なおかつコンピュータの電源がオンのとき、太陽マークが表示されます。	
Name	ポートに対して名前を登録(ポートネーム編集の詳細は、P.40 を参照)している場合、ポートネームが表示されます。	

OSD ファンクション

OSD ファンクションでは、OSD の設定と操作を行います。OSD ファンクションによって、任意のポートへ瞬時に切替え、指定したポートのみスキャン、指定したリストのみ表示、クイックビューポートの表示、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD ファンクションへのアクセス:

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリック、もしくはキーボード上のファンクションキーを押します。
2. サブメニューが表示されますので、選択しダブルクリック、もしくはキーボードからハイライトバーを移動、選択し[Enter]を押します。
3. [Esc]キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

◆ F1 GOTO

GOTO 機能により、直接ポートネーム、もしくはポート ID 番号を入力することで、ポート切り替えが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、[1]キーを入力後、ポートネームを入力後[Enter]を押してください。
- ◆ ポート ID を使用する場合、[2]キーを入力後、ポート ID 番号を入力後[Enter]を押してください。

注意:

ポートネーム、もしくはポート ID の最初の文字を入力すると、該当するポートがスクリーンにリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は、P.41 を参照)。ポートネームとポート ID のリスト表示は設定に依存します(詳細は、P.36 参照)。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

◆ F2 LIST

この機能を用いて、OSDがメインメニューで表示するポートの範囲を設定できます。OSDファンクションの多くは、メインメニューでリスト表示されているポートだけを操作します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設 定	機 能
ALL	設置されているポート全てをリストアップする。
QUICK VIEW	クイックビューポート(P.41 をご参照ください)として選択されたポートをリストアップする。
POWERED ON	コンピュータが接続されていて、そのコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップする。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.41 をご参照ください)として選択され、かつ、コンピュータが接続されていて、そのコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップする。

* この項目の設定はアドミニストレーター権限でログインしたときのみ表示され、クイックビューの設定が反映されます(詳細は、P.42 を参照)。

選択したいポートにハイライトバーを移動して、その後[Enter]キーを押してください。切り替わるとアイコンが現われ、現在選択したポートIDを表示します。

選択し[Enter]を押した後、ディスプレイ表示は OSD メインメニューに戻ります。

◆ F3 SET

この機能はアドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログイン時の環境設定を行います。それぞれのプロファイルは OSD 内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更について:

1. 「F3 SET」の項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設 定	機 能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピュータの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キー2度押しになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面上の、ポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の右上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。 注意:ポート ID 表示位置は、ポート別に独立して設定可能です。ここで設定された表示位置は、アクティブなコンピュータのみで反映されます。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、モニタ画面にポート ID を表示する時間を設定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。

(表は次ページに続きます)

(F3 SET の表、続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポートネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトは、ポート番号とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (P.42 をご参照ください) で、各ポートに接続されたコンピュータの表示のインターバル時間を設定します。1~255 秒までの数値を入力し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	オートスキャンモード (P.42 をご参照ください) で、どのコンピュータにアクセスするかを選択します。設定は、 ALL — アクセスできるように設定された全てのポート (P.36 をご参照ください) POWERED ON — アクセス可能かつ接続されたコンピュータの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (P.36 をご参照ください) のみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されたコンピュータの電源がオンになっているポートのみ の 4 つがあります。デフォルトは、ALL です。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールから入力されていない場合、画面はブランクになります。1~30 分の時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分で設定するるとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分 (不可) となっています。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。デフォルトでは ON 使用可能になっています。

◆ F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターののみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレータは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4 ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]を押します。

項目選択後、F4 ADM ファンクションのサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで動かした後、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設 定	機 能
SET USERNAME AND PASSWORD	<p>この機能でアドミニストレータおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アドミニストレータ1人およびユーザー4人のパスワードを設定します。 2. ユーザーフィールドまたはアドミニストレータフィールドのうち、1つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは英数字(A~Z, 0~9)最大12文字までの組み合わせが可能です。フィールドを切替えるには、Tab キーまたは上下の矢印キーを使用します。 3. 各人のユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定した後、[Enter]を押します。 4. 以前のユーザーネームまたはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、バックスペースキーを用いて消してください。
SET LOGOUT TIMEOUT	<p>この機能で設定された時間、コンソールからの入力が無い場合にそのオペレータは自動的にログアウトされます。コンソールを再び使用する前には、ログインが必要となります。この機能はオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは0分(不可)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
EDIT PORT NAMES	<p>どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレータはポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。</p> <p>注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみがここで表示されます。</p> <p>ポートネームを編集するには:</p> <ol style="list-style-type: none">1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]を押します。2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームの最大文字数は 12 文字で、英数字 (a~z、0~9) と、記号 (+、-、/、コロン、ピリオド、スペース) が使用できます。大小文字は区別されません。OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]を押してその変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	<p>この機能は、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定を除いて、変更された設定全てを元に戻し、元のデフォルト値に戻します。</p>
CLEAR NAME LIST	<p>この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますが、異なる点は変更された設定全てを元に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定もすべて削除します。</p>
ACTIVATE BEEPER	<p>ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.42 をご参照ください)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力があった時にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y (有)となっています。</p>

(この表は次ページに続く)

設 定	機 能
SET QUICK VIEW PORTS	<p>どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。この機能はアドミニストレーターのみが設定できます。</p> <p>注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみがここで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使用してハイライトバーをそこへ移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST (P.36 をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択された場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (P.42 をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトはどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET ACCESSIBLE PORTS	<p>この機能でアドミニストレーターはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、その後、[スペースキー]を押して、F(フルアクセス)、V(見るのみ)または、BLANK(ブランク)という選択を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの作業を繰り返し、設定が終わったら[Esc]を押します。デフォルトでは、全てのポートが全てのユーザーに対し F(フルアクセス)となっています。</p> <p>注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。</p>
FIRMWARE UPGRADE	<p>CS-1754/CS-1758 のファームウェアをアップグレードする場合(詳細は P.44 を参照)は、はじめにファームウェアアップグレードモードに設定します。</p>
SET PORT OS	<p>この機能により、接続されたコンピュータ側の OS をポートごとに設定します。ポート選択後に[スペースキー]を押して、OS の設定(Win、Sun、Mac)をします。繰り返しこの設定を行い、最後に[Esc]キーを押します。デフォルト状態では Win になっています。</p>

◆ F7 SCAN

スキャン機能では手動で切り替え作業をすることなく、稼働中のコンピュータを一定の間隔で自動切り替え、監視することができます。

◆ オートスキャン時に表示するコンピュータは、スキャンモード設定の F3 SET (詳細は、P.38 参照)から選択します。

◆ オートスキャンモード中はキーボードの Num Lock、Caps Lock LED が交互に点滅します。

◆ それぞれのポートを表示する時間間隔の設定は、Scan Duration (スキャン期間) 設定で行い、F3 SET から設定します。スキャンを中止し、特定のポートに切り替える場合は、そのポート表示中に[スペースキー]を押してください。

◆ スキャンしているポートが、コンピュータが接続されていない、もしくは接続されたコンピュータの電源がオフの場合は、モニタに何も表示されません。マウスとキーボードで入力しても何も反応しません。Scan Duration より設定された表示時間経過後、スキャンは次のポートに切り替ります。

◆ オートスキャンモード中に[S]キーを押すと、現在アクセスしているポートID が表示されます。

◆ 特定のポート表示で一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくはマウスにて左クリックをすることでオートスキャンモード(詳細は、P.26 参照)は、ポーズ状態になります。この間、接続されたコンピュータの画面が表示されているだけで、キーボードとマウスの入力は無効です。入力の必要がある場合は、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを解除してください。

◆ オートスキャンモードの解除は[スペースキー]もしくは[Esc]キーを押してください。

◆ F8 LOUT

LOUT(ログアウト)すると、OSD 操作は終了し、コンソール画面表示は消えます。ログアウト後に OSD 操作をする場合は、再度ログインしてください。

これは、[Esc]キーを使った OSD 表示オフ後に、OSD ホットキーで再表示する操作とは違います。

注意:

1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示した場合、OSD メインメニュー以外は表示されません。ユーザーネームとパスワードを入力後、使用可能になります。
2. ログアウト後に再び OSD を表示し、メニューからポートを選択しないで[Esc]キーを使用して OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には *Null Port* 無効ポートメッセージが表示されます。

ファームウェアアップグレードユーティリティ

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用し、KVM スイッチのファームウェアを自動的に簡単にアップグレードできます。

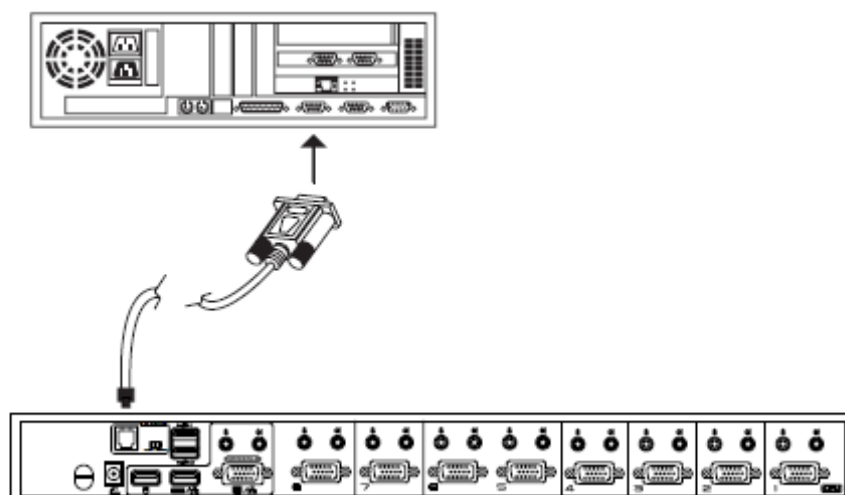
ユーティリティは、デバイス別のファームウェアアップグレードパッケージとして提供されます。最新のファームウェアは弊社 Web サイトで公開しておりますので、定期的に Web サポートサイトをご覧くださいようお願い致します。

<http://www.atenjapan.jp/>

はじめる前に

ファームウェアアップグレードをはじめる前に下記のように準備してください：

1. KVM に接続されていないコンピュータで弊社 Web サポートサイトにアクセスしてください。
2. CS-1754/CS-1758 用のファームウェアアップグレードパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。
3. 製品同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、KVM 側ファームウェアアップグレードポートと、コンピュータ側 COM ポートを接続してください。



4. CS-1754/GS-1758 に接続されたコンピュータをすべてシャットダウン(電源オフ)してください。
5. KVM のコンソールから OSD 画面(P.33 参照)を表示し F4 ADM を選択します。
6. サブメニューのファームウェアアップグレード(P.41 参照)を選択し[Enter]を押し、その後[Y]を押してください。ファームウェアアップグレードモードの画面が表示されます。

アップグレード開始

ファームウェアをアップグレードします：

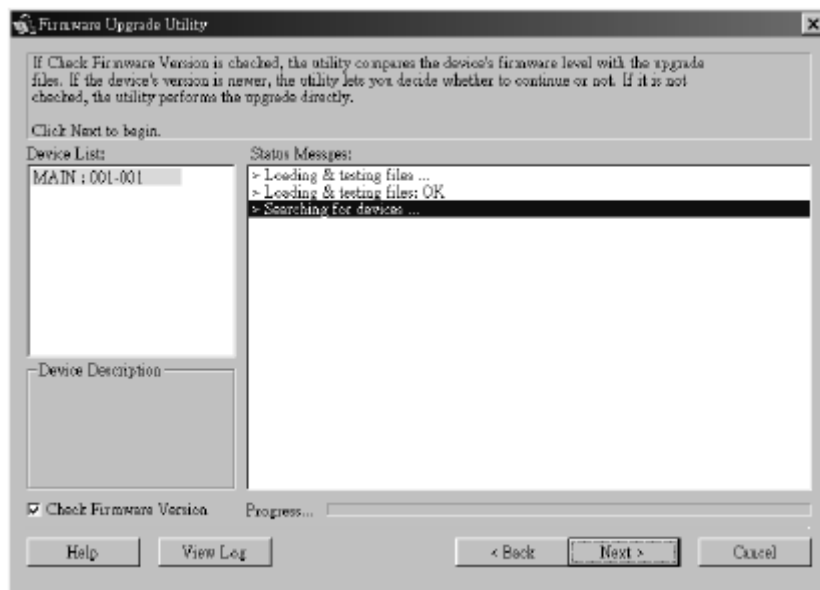
1. ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください - ファイルアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインから実行してください。

Welcome Firmware Upgrade Utility の画面が表示されます：



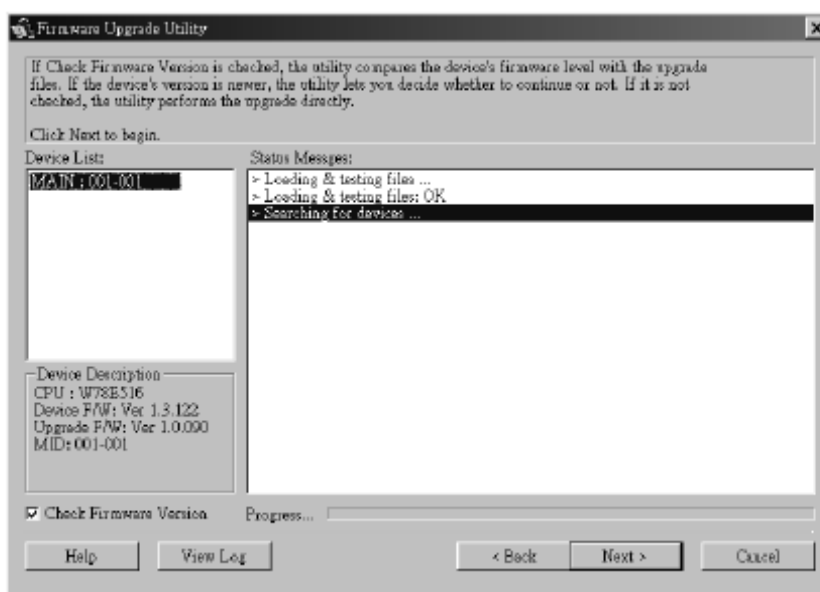
2. 使用許諾契約書を読み、同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

3. 「Next」(次へ)をクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます:

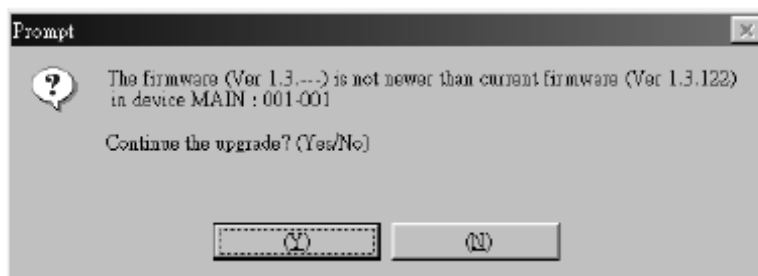


ユーティリティは接続先を調査し、パッケージからアップグレード可能なデバイスリストを表示します。

4. リストからデバイスを選択すると、デバイスの詳細が「Device Description」パネルに表示されます。



5. デバイスを選択後、「Next」(次へ)をクリックしアップグレードを開始します。



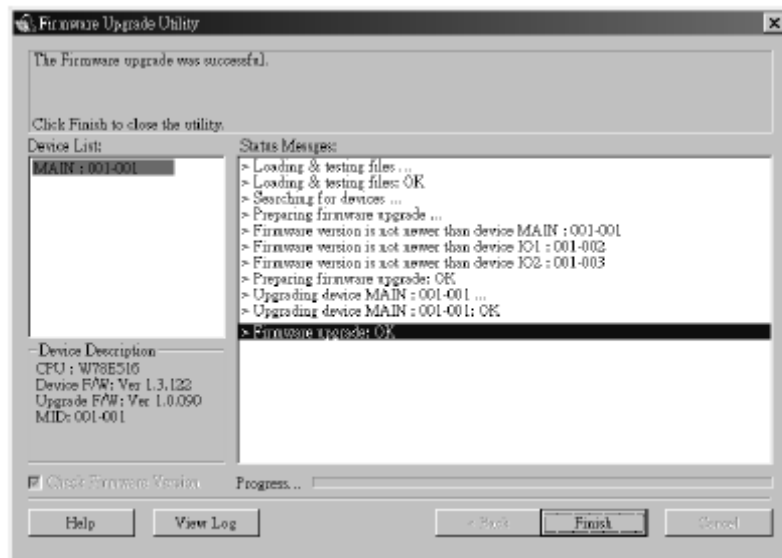
ユーティリティの「Check Firmware Version」にチェックが入っている場合は、デバイスのファームウェアのバージョンを検査します。もしインストールしようとするファームウェアのバージョンよりも、新しいバージョンを導入済みの場合は、「Continue the upgrade?」(「Yes」/「No」)のダイアログボックスが表示されますので、続行/キャンセル(「Yes」/「No」)の選択をしてください。

「Check Firmware Version」にチェックが入っていない場合は、ユーティリティはバージョンを調べずに実行されます。

アップグレードの工程がメッセージパネルに表示され、進行状況はプログレスバーにて表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了した後、画面表示にてアップグレードが成功したことが表示されます：

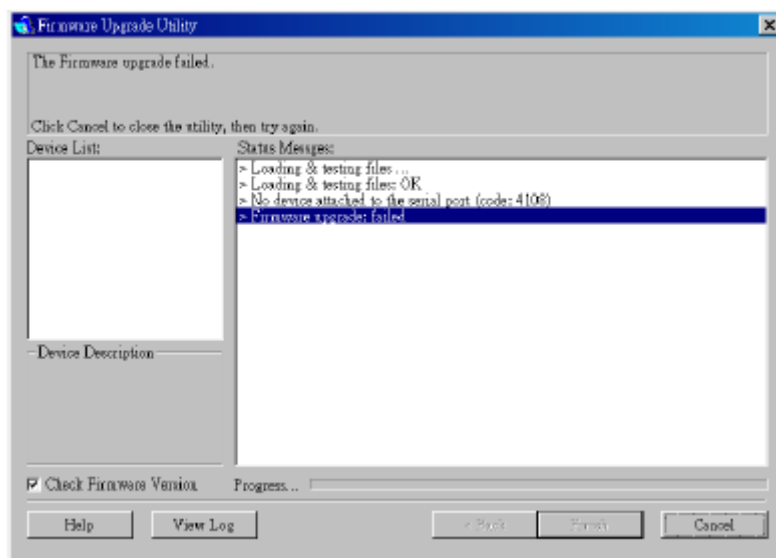


「Finish」(完了)をクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じてください。

アップグレード失敗

もしアップグレードが完了しなかった場合、再試行のダイアログボックスが表示されます。

「Yes」をクリックした場合はアップグレードが再試行されます。「No」をクリックした場合は、「Upgrade Failed」(アップグレード失敗)と表示されます：



キャンセルをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じます。次の項を参照しファームウェアアップグレードリカバリーをしてください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となるのは以下の 2 つの場合です：

- ◆ ファームウェアのアップグレードを始めたが途中で中止した時
- ◆ ファームウェアのアップグレードが失敗した時

注意：

カスケード接続しているユニットがアップグレードに失敗し、ファームウェアアップグレードリカバリーをする場合は、カスケード先から外して頂き、単体でリカバリーを実行してください。完了後は再接続して構いません。

ファームウェアアップグレードリカバリーを実行する場合、下記をご参照ください：

1. ユニットの電源アダプタをプラグから抜いてください。
2. ファームウェアアップグレードリカバリーのスイッチ(P.12 参照)を「Recover」の位置に入れてください。
3. ファームウェアアップグレードケーブル(製品同梱)を使用し、KVM 側ファームウェアアップグレードポートと、コンピュータ側 COM ポートを接続してください。
4. ユニットの電源アダプタケーブルを接続します。
5. アップグレードを開始します。手順はアップグレードの項目から参照(P.45)してください。
6. アップグレードが完了した後、もう一度ユニットの電源アダプタケーブルをプラグから抜いてください。
7. ファームウェアアップグレードリカバリーのスイッチを「Normal」位置に戻します。
8. ユニットの電源アダプタケーブルを接続します。

これで、ファームウェアアップグレードリカバリー操作は完了です。KVM スイッチは使用可能です。

付録

下表は、マスタービューユニット(MV)の数とそれがコントロールできるコンピュータの数の関係を示しています。

CS-1754 - コンピュータ 接続表

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 4	7	19 - 22	13	37 - 40	19	55 - 58
2	4 - 7	8	22 - 25	14	40 - 43	20	58 - 61
3	7 - 10	9	25 - 28	15	43 - 46	21	61 - 64
4	10 - 13	10	28 - 31	16	46 - 49		
5	13 - 16	11	31 - 34	17	49 - 52		
6	16 - 19	12	34 - 37	18	52 - 55		

CS-1758 - コンピュータ 接続表

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 8	20	131 - 141	39	267 - 274	58	400 - 407
2	8 - 15	21	141 - 148	40	274 - 281	59	407 - 414
3	15 - 22	22	148 - 155	41	281 - 288	60	414 - 421
4	22 - 29	23	155 - 162	42	288 - 295	61	421 - 428
5	29 - 36	24	162 - 169	43	295 - 302	62	428 - 435
6	36 - 43	25	169 - 176	44	302 - 309	63	435 - 442
7	43 - 50	26	176 - 183	45	309 - 316	64	442 - 449
8	50 - 57	27	183 - 190	46	316 - 323	65	449 - 456
9	57 - 64	28	190 - 197	47	323 - 330	66	456 - 463
10	64 - 71	29	197 - 204	48	330 - 337	67	463 - 470
11	71 - 78	30	204 - 211	49	337 - 344	68	470 - 477
12	78 - 85	31	211 - 218	50	344 - 351	69	477 - 484
13	85 - 92	32	218 - 225	51	351 - 358	70	484 - 491
14	92 - 99	33	225 - 232	52	358 - 365	71	491 - 498
15	99 - 106	34	232 - 239	53	365 - 372	72	498 - 505
16	106 - 113	35	239 - 246	54	372 - 379	73	505 - 512
17	113 - 120	36	246 - 253	55	379 - 386		
18	120 - 127	37	253 - 260	56	386 - 393		
19	127 - 134	38	260 - 267	57	393 - 400		

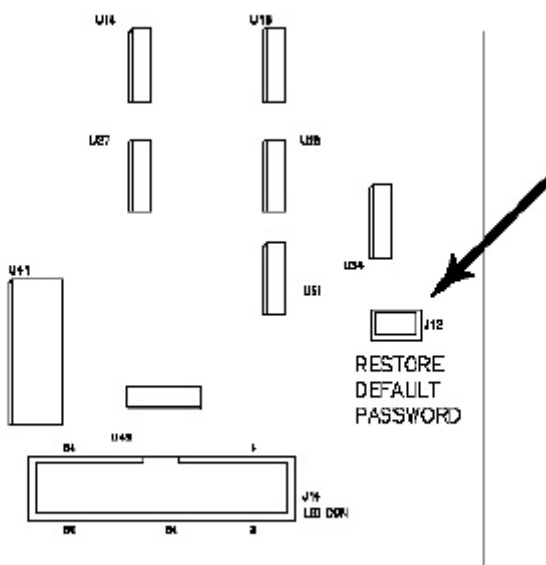
トラブルシューティング

症 状	考えられる原因	処 置 方 法
動作が不安定	ユニット側への供給電力が不十分	使用している電源アダプタが仕様に沿った DC 5V であること、また適切に接続されていることを確認してください。
マウスまたはキーボードが反応しない	マウスまたはキーボードのリセットが必要	ポートセレクトスイッチの 1 と 2 を同時に 3 秒間押し続けた状態を保持してください。
	ケーブルがコンピュータに正しく接続されていない	KVM スイッチからコンピュータへのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	KVM スイッチのリセットが必要	接続されているすべてのデバイスの電源をオフにし (P.21 参照)、KVM スイッチの電源をオフにし、5 秒間待ってから再起動してください。
Sun Blade 2000、Sun V880 のプラットフォームにおいて OSD 画面が表示できない	起動時の問題	Sun Blade 2000、Sun V880 が接続されるポートでは接続前にコンピュータが起動されている必要があります。そうしないと OSD 画面で表示されません。
Dell DL380 で BIOS セットアッププログラムに入れない	ポート OS 設定の問題	この場合、Dell DL380 はポート OS の設定で Sun コンピュータとして設定する必要があります (詳細は P.41)。BIOS セットアッププログラムにアクセスする場合は、ポート OS を設定後、再起動してください。 注意: BIOS セットアッププログラム終了後は、ポート OS の設定を元に戻してください。

ログイン情報の消去

もし万が一アドミニストレーター権限でログインすることができなくなった場合（ユーザーネームとパスワード情報を忘れてしまったりしたときなど）、以下の手順でログイン情報を消去することができます。

1. ユニットの電源を切り、本体ケースを開けます。
2. 右手前の図に示された位置にある *Restore Default Password* と書かれたジャンパスイッチをショートさせます。



3. そのまま電源を入れます。
4. 電源投入後数秒待つてから、電源を切り、ジャンパスイッチを元に戻します。
4. 本体ケースを元に戻します。OSD ログイン機能は初回電源投入時と同様の手順となり(P.33 参照)、アドミニストレーターとユーザーのパスワードをリセットすることができます。

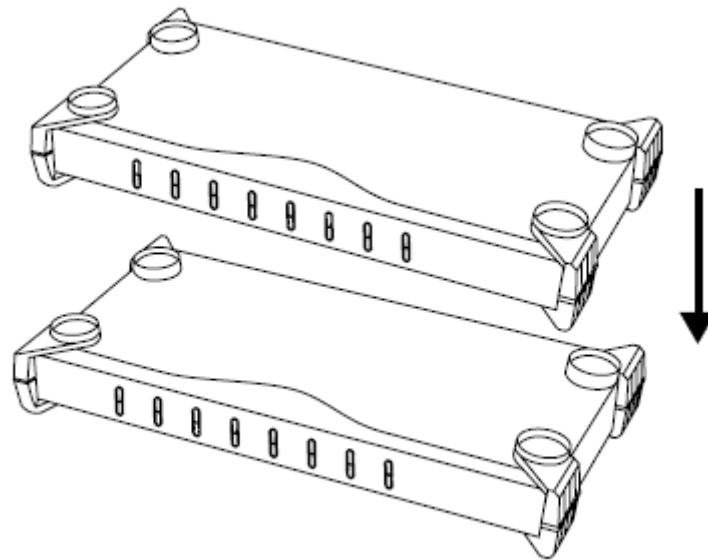
仕様

機能		CS-1754	CS-1758
コンピュータ接続数(ダイレクト)		4	8
ポート選択		フロントパネル ポート選択ボタン、OSD(オンスクリーンディスプレイ)、ホットキー	
LED	オンライン	オレンジ 4 (ポート選択ボタン内蔵)	オレンジ 8 (ポート選択ボタン内蔵)
	ポート選択	グリーン 4 (ポート選択ボタン内蔵)	グリーン 8 (ポート選択ボタン内蔵)
コンソール側 コネクタ	キーボード	USB type A × 1	
	マウス	USB type A × 1	
	モニタ	HDB-15ピン メス × 1	
	オーディオ	ステレオスピーカーポート × 1 マイクポート × 1	
コンピュータ側 コネクタ	KVM	SPDB-15ピン メス × 4	SPDB-15ピン メス × 8
	オーディオ	ステレオポート × 4	ステレオポート × 8
		マイクポート × 4	マイクポート × 8
ファームウェアアップグレード		RJ-11 × 1	
電源仕様/消費電力		DC5V / 2.6A	
スキャンインターバル(OSD選択)		5秒(デフォルト) ; 1~255秒(ユーザー設定)	
VGA解像度		最大 2048 × 1536、DDC2B 準拠	
電源		セルフパワー	
動作温度		0~50°C	
保管温度		-20~60°C	
湿度		0~80% RH 結露なきこと	
ケース材質		メタル	
重量		2.64 kg	2.72 kg
サイズ(L X W X H)		432 × 154 × 45 mm (19 インチラックマウント 1U)	

スタッキングとラックマウント

スタッキング

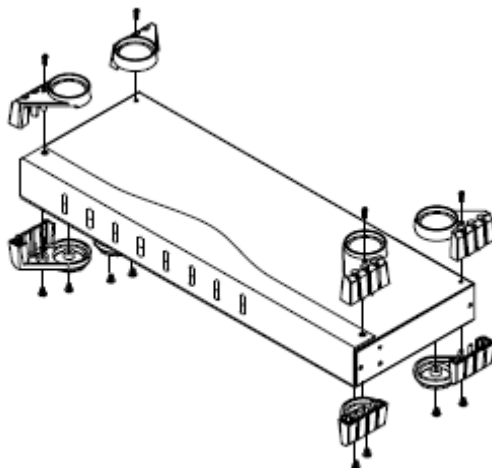
KVM スイッチはスタッキングブラケットを用いて、縦に積み重ねて使用することが可能です。



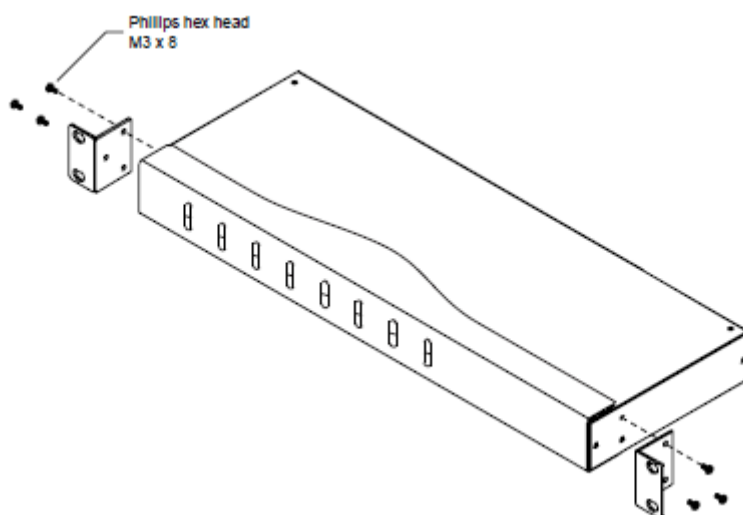
ラックマウント

ユニットをシステムラックにマウントするには以下の手順に従ってください：

1. スタッキングブラケットを下図に従いネジ止めをすべて外して、本体より取り外します。



2. 次に設置金具を、下図に従い本体側面にネジ止めしてください。



3. 装置をラックにスライドさせて入れ、ラックにしっかりと取り付けます。

製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付带的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。